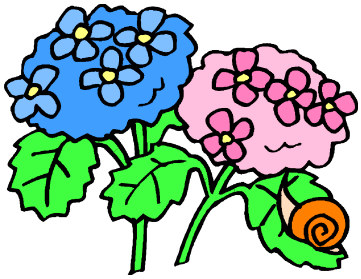
中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより平成 24 年 5 月 30 日発行

6月の主な行事予定

6月　3日（日）
　中部地区少年少女のつどい（やまもり温泉キャンプ場・大山池）
6月２１日（木）
　東伯郡社会教育協議会総会（中部総合事務所）
6月２２日（金）
　西部地区社会教育関係者研修会（日吉津村中央公民館）
6月２７日（水）
　東部地区社会教育関係者研修会（東部総合事務所）

6月は強調月間「心とからだいきいきキャンペーン」

はじめよう明日につながる生活リズム

　鳥取県教育委員会で、子どもたちの基本的生活習慣の定着に向けて展開している「心とからだいきいきキャンペーン」は、６月が強調月間です。
　新しいロゴとキャッチフレーズの新パンフレットができました。

中部の合い言葉は「しじみとれた」

　中部教育局では、子どもたちの基本的生活習慣の定着に向けた合い言葉「しじみとれた」のポスターを幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校に配布しました。

中国･四国･九州地区生涯教育実践研究交流会

「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」が平成 24 年 5 月 19 日、20 日の 2 日間、福岡県立社会教育総合センターで開催されました。

この大会に北栄町教育委員会の手嶋さんと琴浦町教育委員会の岩本さんが参加されました。そのレポートを掲載します。

船上山少年自然の家の実践発表と特別報告

北栄町教育委員会事務局　生涯学習課　手嶋仁美

1 日目の実践発表の一つに船上山少年自然の家より、大学生企画の勉強合宿についての発表がありました。

初めての「勉強合宿」という内容、年度途中での事業であること等…。開催に至るまでの問題を、大学生の「必ず実現させたい！」という熱い思いと、前例にとらわれない自由な発想で！という所長のもと、職員一体となって乗り越える様子がとても印象的でした。**何をする時でも、強い気持ちが原動力になるなと感じました。**たくさんの方が会場に来ておられ、質疑応答でも笑いが出て終始楽しく聞かせていただきました。

船上山少年自然の家の
実践発表

そのほかの実践発表も聞かせていただきましたが、子どもの時期に生きる学びに触れ、地域との関わりをもつことがとても重要だということが共通しているように思いました。

実践発表の後は「人は 2 度死ぬ―自分史は「紙の墓標」」と題して三浦清一郎氏の特別報告を聴講しました。死の一つは「生物学的存在」（身体）の消滅。もう一つは「歴史的存在」（人々の記憶）の消滅。自分史を書くことは「私を忘れないで」というメッセージで、自分の存在を大事な人々に記憶されることを最大の動機としているのではないか、ということでした。人は死期が近づくと饒舌になる･･･。自分史講座の開催を勧めておられました。

参加される方々の志の高さ、意思の強さに、自分の携わる仕事が、あらゆる人の人生に幅広く関わるものであるという重要性を改めて認識しました。4 月に異動したばかりでこの交流会に参加させていただくことができて、とても良かったと思います。

来年は 5 月 18 日、19 日の開催予定だそうです。皆さんも、機会がありましたらぜひ参加してみてください☆

名探偵コナンのクッキーと
ねばりっこチップス！

交流会では、参加者の地元を
ＰＲするコーナーもありました

アウトリーチ型家庭教育・子育て支援の実践発表とインタビュー・ダイアローグ

琴浦町教育委員会　社会教育課　岩本　幸恵

＜一日目　実践発表＞

印象に残った事例を一つ紹介したいと思います。

アウトリーチ型家庭教育・子育て支援相談事業を県から委託されている相談員グループの事例です。活動範囲は長崎市の橘小学校区で、訪問型の相談事業の他にも小学校、保育園、放課後児童クラブ、地域のお遊び教室などで講演会を企画したり、ミニ運動会をしたりといった活動されています。

行政主体ではなく、民生委員、主任児童委員が主体ということで、コーディネート役は誰がしているのか質問しました。すると、意外にも行政職員のコーディネート役は存在せず、直接、小学校や保育園や地域に交渉しに行きますとのことでした。

小学校が事務局になっていて毎月 1 回の定例会が開かれており、その会に校長も参加します。相談グループの広報活動も、道で出会った親子への声かけ、直接手渡しでのチラシ配りなど、とても気さくで積極的に行われています。

活動中も、対象者をただのお客さんにするのではなく、企画に参加してもらったり、提案をしてもらったり、実際に役割をお願いしたりしています。そうした工夫が、相談グループと保護者などの対象者との距離を縮めると同時に、信頼関係、相談しやすい雰囲気をつくっているのではないかと思いました。とにかく関係づくりを上手にされていると思いました。

＜二日目　インタビュー・ダイアローグ＞

「通学合宿等『生活体験プログラム』の意義と方法」

福岡県みやま市立江浦（えのうら）小学校と、福岡県遠賀（おんが）町の取り組みを聞きました。

まず、江浦小学校の特徴として、参加率の高さと、きちんと機能している実行委員があることがあげられます。小学校主催の通学合宿の参加率は、ほぼ 100％。学校と保護者、実行委員の役割もきちんとあり、名前だけの実行委員会ではありません。

学校は実行委員会を立ち上げるときの招集と調整役を、ＰＴＡ副会長が実行委員長を行い、他の委員には安全パトロール隊、自治公民館、民生委員などが加わります。保護者は当日の通学合宿の実働部隊として参加します。

通学合宿の成果か、江浦小学校の子どもたちは落ち着いていて、問題行動も少なく、学力面でも、全国平均より 7 点～8 点高い数字を出しています。

行政主催で行っている遠賀町の特徴は 6 泊 7 日という泊数の長さ。また、プログラムの内容にも特徴があります。料理、洗濯、掃除など生活そのものを基本としており、竹細工、体験活動といったスケジュールは組みません。

あえて、地味な生活体験をさせることに意味があるとの

こと。通学合宿をしてすぐに劇的な成長や変化があるわけではありませんが、はじめは触ることもできなかった魚を触るようになり、トイレ掃除も嫌がらなくなる等、家庭教育に続くきっかけ作りとなるプログラムだと話されていました。

現在、生活の中から親子の共同労働が失われてしまい、地域での異年齢の遊びや生活が失われています。世の中は便利になっているし、親がなんでもしてくれる。子どもたちは楽しいことが大好きだが、それだけやらせるわけにはいかない。やりたいことをするためには、やりたくないことでもやらなければならない。そんな機会が通学合宿にはあると学びました。

新任生涯学習・社会教育担当者研修会開催

参加型を多く取り入れた研修

平成 24 年 5 月 25 日に家庭･地域教育課の主催で「新任生涯学習・社会教育担当者研修会」が中部総合事務所講堂で開催されました。

概ね経験 2 年以内の市町村教育委員会事務局の生涯学習・社会教育担当者を対象とした研修は、今年度からの試みで、丸一日をかけた研修でした。

20 名の参加者が、講義「生涯学習・社会教育の基礎・基本」、演習「子育て親育ちプログラム」体験をしました。

日吉津村教育委員会の実践発表「地域の人材を活かす～社会教育関係委員の実態を踏まえて～」、琴浦町教育委員会の実践発表「10 秒の愛で育む子どもの未来～0 歳から 15 歳までの子どもの自尊感情を育む親子のきずなづくり～」では、実際の市町村の事業の実例を聞きました。

最後にワークショップで、ふりかえりと意見交換を行いました。ワークショップを教育局が担当したのですが、社会教育で大切にしたいことのなかで「評価」というキーワードが、多く挙がりました。今回は、新任担当者が対象でもあり、評価についてあまり触れなかったにも関わらず、「評価」というキーワードが挙がったことは予想外でした。このことは、次回の研修に活かしていくように家庭･地域教育課と共に練っていきたいと思います。

社会教育委員さんに
もっと、関わって
いただきましょう

10 秒の愛で
自尊感情を育てる

【あとがき】
実践研究交流会のレポートありがとうございました。そのレポートからヒントを得たのですが、広報紙の写真のキャプションに吹き出しを使うということは、やってみるとポップな感じで見やすいと思いました。まんが王国建国イヤーですので、見やすい広報を心がけたいと思います。（大本）

中部教育局
社会教育担当
電話　0858（23）3253
FAX　0858（23）5203
E-mail daimotoy@pref.tottori.jp